



「闇の中で眠る幼子の光」

タリタクム日本運営委員
Sr. 宮澤直子
(サレジアン・シスターズ)

「クリスマスにイエスさまを、私たちの心の冷たい飼葉おけにではなく、
愛と謙遜に満ちた心、お互いへの愛で暖められた心の中にお迎えできますように。」
(マザー・テレサ)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の蔓延によって、世界が置かれている様々な状況はこの 1 年間で激しく揺れ動きました。現在もまだ感染拡大に伴い、私たちの生命は脅かされ、心身の健康問題や生活不安、労働や教育に関する様々な困難、経済への大打撃など、あらゆる面において深刻な状況を過ごし、先の見えない闇が見え隠れすることがあります。

このような中、国連では「COVID-19 はあらゆるところに影響を与えているものの、その影響は平等ではなく、むしろすでにあった不平等や不正義を明るみに出し、さらに悪化させている」と指摘しています。つまり、最も貧しい人々や最も脆弱な立場に置かれた人々がより大きなしわ寄せを受けている、と伝えているのです。教皇フランシスコは、新回勅「Fratelli tutti (フラテッリ・トゥッティ)」の中で、その脆弱な立場に置かれている人々、人身取引被害者についてこう話しています。(一部要約) 子どもを含む、男女何百万の人々が、自由を奪われ、奴隷のような境遇で生きることを強制され、「神の似姿」として創られた人間がその自由を奪われ売られ、他者の所有物となり目的達成の手段とされていると。また、私たちの社会の中で、見捨てられ、無視されている人々がいること。そして人種差別は、素早く突然変異するウイルスである、と指摘しています。

幼子イエスが誕生した時代、やはり様々な不平等や不正義がありました。深い闇を抱えた社会の中で、より貧しい人々が苦しめられ、疎外されていく中、幼子イエスはその深い闇夜に輝く星の下、貧しい馬小屋の中で、温かい優しい光をまわりに放ちながら、スヤスヤと眠っていたのではないのでしょうか。当時人々から疎外されていた羊飼いや異教の地から訪問した博士たちには優しい愛らしいほほえみをもって。

教皇フランシスコは、同回勅で「愛は、私たちを孤立や分裂の鎖を打ち砕き、その代わりに橋を架けてくれるものであり、誰をも排除せず、すべての人に開かれている」(一部要約)とも伝えています。このクリスマス、もう一度、神が私たちに注いでくださる優しい温かなまなざしに目を向け、この困難な状況を乗り越える力と勇気を願いましょう。私たちは一人ではありません。

“インマヌエル、神は共におられます。”



タリタクム日本・オンラインセミナー2020 ～人身取引とコロナの影響

◆9月11日「人身取引とコロナの影響～日本の状況」

「人身取引と新型コロナ」というテーマでのタリタクムのオンライン連続セミナーの第1回は、「日本の状況」ということで、日本における人身取引と新型コロナウイルスの感染拡大でさらに被害を受ける外国人移住者の状況に焦点あてました。

冒頭に、難民移住移動者委員会担当司教である山野内倫昭司教から、タリタクムの設立10年の歩みの振り返りから始まり、「新型コロナウイルスと共に生きる私たち」と題して、教皇フランシスコの取り組みやメッセージなどの紹介と共に、このコロナの経験をとおして今の社会の私たちに問われていることがらについて、ご自身の考察からの問題提起をいただきました。次に、難民移住移動者委員会の山岸から、日本における人身取引の現状と課題について、これまでの歴史をふりかえって概要の報告と、カトリック教会の人身取引に対する取り組みとして、タリタクム日本の設立経緯や具体的な活動の紹介もさせていただきました。最後に、愛徳姉妹会のシスターレティランから、コロナの影響を受けるベトナム人技能実習生と留学生の現状と生活支援についてのお話がありました。人身取引の温床と言われる技能実習制度や留学制度によって来日したベトナム人が、コロナの影響により日常の食べ物にも事欠くような生活困窮に陥っている状況や、ベトナム共同体を対象とした食糧支援プロジェクト「一杯の愛のお米プロジェクト」を立ち上げてこれまでに5000人以上に支援をしてきた経験などが共有されました。セミナー全体をとおして、コロナ禍の日本でどのような人身取引が起こっているか、脆弱な立場にある外国人移住者がさらに追い詰められている現状とカトリック教会の取り組みについて共有し、それぞれの場でできることについて考える機会を提供できたのではないかと思います。

難民移住移動者委員会委員/タリタクム日本運営委員
山岸素子

◆9月18日「人身取引とコロナの影響～世界の状況」

今年の新型コロナ感染症の感染拡大は、私たちの日々の暮らしや労働に変化をもたらし、新しい様式にも否応なく対応させられています。ウィルスの蔓延を防ぐため、タリタクム日本の活動も様々な制限を受けています。対面式のセミナーの開催ができないため、タリタクム日本チームは、「新型コロナ感染症と人身取引」と題した3回連続のウェビナー（ウェブセミナー）を企画、実施しました。2回目のウェビナーとなる9月18日は、新型コロナ感染症と人身取引～世界の状況というテーマの下開催されました。およそ200名の方が日本、フィリピン、ミャンマー、タイ、インド、インドネシア、カンボジア、パキスタン、スリランカ、韓国、ナイジェリア、タンザニア、ケニア、ペルーなど、たくさんの国から参加してくださいました。またメインスピーカーとして、国際タリタクムのコーディネーターのSr. ガブリエラ・ボッタニがローマから登壇してくださいました。

この日のウェビナーは、J-CaRM 委員長の松浦悟郎司教の経験—過去の震災時に、関わり、寄り添った外国人の話—から始まりました。その後 Sr. ガブリエラから、国際タリタクム設立の背景と、タリタクムの10年間の働きが紹介されました。そして、新型コロナ感染症によるパンデミックの中、最も脆弱な人びと—女性、子ども、民族的マ



第2回ウェビナーの様子。世界とオンラインでつながる新しい取り組み

イノリティ、外国人などが、人身取引による影響を最も受けやすい状況が明らかにされました。さらに家庭内暴力、子供、女性、青年の性的搾取を含む屋内およびオンラインでの搾取がエスカレートしている状況と、パンデミックによる影響で職を失った移住労働者が、放置されている状況が明らかにされました。Sr. ガブリエラによると、このような状況の中、タリタムでは影響を最も受けている人々への対応をはじめているが、人身取引の構造的な問題に立ち向かうには、関係するすべての人、団体と協力して連帯することが不可欠である、と強調しました。さらに、今後 2020 年から 2025 年のタリタムの活動はネットワーキングと養成、コミュニケーションを優先的に取り組む、と説明がありました。最後に教皇フランシスコの希望と励ましの言葉を引用し、スピーチを締めくくりました。

「あなた方の仕事はさまざまな組織の使命をまとめ、組織間の協力を促します。あなた方は最前線に立って活動することを選択しました。皆さんが人身取引に対する活動の「前衛」として働き働き続けていることを感謝しています。（人身取引に関する国際会議の参加者への演説、2019 年 4 月 11 日を参照）。これは、連携のモデルでもあります。それは教会全体の模範であり、私たち男性、司祭、司教たち対して素晴らしい模範を示しています。どうか、続けてください！」

タリタム日本運営委員

Sr. アビー・アベリノ

(メリノール女子修道会)



◆9 月 25 日 人身取引とコロナの影響～これからの教会の希望とチャレンジ

前回までに、コロナ禍の日本で生きる外国籍の人々の現状を知り、更に Talitha Kum International の視点から、世界各地で奉獻生活者と信徒が取り組んでいる草の根活動について共有することができました。そして最後の時に、「人身取引とコロナの影響～これからの教会の希望とチャレンジ」ということにフォーカスを当て、メリノール女子修道会のシスター伊藤の話に目を見開き、耳を傾けました。

日本カトリック難民移住移動者委員会 (J-CaRM) / タリタム日本～人身取引問題に取り組む教会

タリタム日本・オンラインセミナー2020

人身取引と新型コロナウイルスの影響

～世界・日本の状況とこれからの教会～
Impact of the Covid-19 on Human Trafficking
～Global/Local Situation and Spiritual Resilience～

開催日 2020年9月11日(金)、18日(金)、25日(金)
時間 14:00～16:00 (いずれの日も)
場所 ZOOMウェビナー (事前の参加登録が必要です)
参加登録 <https://forms.gle/2Q1cuKUtEg7EoBdA>
※ご参加登録いただいたメールアドレスに、後日、ZOOMのIDをお送りします
※各セミナー日の2日前(水曜日)に数枠を締め切らせていただきます。

◆3回連続セミナー概要(いずれの日も講演が中心で、質疑応答の時間を設けます)

①9月11日(金)14:00～16:00 「人身取引とコロナの影響～日本の状況」
導入:山内 倫昭 司教 (日本カトリック難民移住移動者委員会 担当司教)
お話: Sr. レーティ・ラン (タリタム日本運営委員 / 聖ビンセンジオ・ア・パウロの愛徳姉妹会)
山岸 素子 (日本カトリック難民移住移動者委員会 委員)
使用言語: 日本語 (ゆっくり話します)

②9月18日(金)14:00～16:00 「人身取引とコロナの影響～世界の状況」
導入:松浦 信郎 司教 (日本カトリック難民移住移動者委員会 委員長)
お話: Sr. ガブリエラ ボッタニ (国際タリタムコーディネーター)
Sr. アビー アベリノ (タリタム日本運営委員 / メリノール女子修道会)
使用言語: 英語 (通訳あり)

③9月25日(金)14:00～16:00 「人身取引とコロナの影響～これからの教会の希望とチャレンジ」
導入:山内 倫昭 司教
お話: Sr. 伊藤 瑞子 (メリノール女子修道会)
使用言語: 日本語 (ゆっくり話します)

お問い合わせ カトリック難民移住移動者委員会
03-5632-4441 / jccarm@cbcj.catholic.jp

TALITHA KUM
END HUMAN TRAFFICKING

パンデミックを前にした私たちは、人身取引に苦しむ人々とどう向き合っていくのか、それよりもまず、自分自身がどのように生きていこうとするかについてでさえ、怯んでいる現実があります。それについて、「より大きな視野のもとで探さなければならない。全ての被造物という、地球レベルで模索しよう。全ての被造物の助けを借りて。」という、Sr. 伊藤の示唆に深呼吸をすることができました。どこに行くのかではなく、どのように前に進むかを考え、共に進むことだと提示しています。Not where we are going but how we are going together is important.
答えそのものではなく、どのように答えを探すかが大切です。What is important is not the answer, but how to find the answer.
ZOOMで行っている研修会の間、連帯の輪が広がったように感じた私たちは希望をもって前に進んでいこうという思いが広がりました。

タリタム日本運営委員

Sr. 狩野敦子

(礼拝会)

◆事務局より

2021年2月8日に「オンラインで共に祈るひととき」を開催いたします！



2月8日は、「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日」、そして聖ジュゼッピーナ・バキータの記念日です。

聖ジュゼッピーナ・バキータをご存知ですか？
スーダン出身の聖バキータは、7歳で誘拐され、
奴隷として売られ、スーダンとイタリアで働いた後に
自由になり、洗礼を受けて、カノッサ修道会修道女と
なり、2000年に列聖されました。



わたしたちのアクションをとりまとめて、力を結集することが
必要です。「人身取引にともに反対しよう」のテーマを通し
て、それぞれができることに応じながら、この日の祈りと黙想
と行動に参加することが呼びかけられています。

【参照】 [国際タリタクムウェブサイト](#)
[カノッサ修道会本部ウェブサイト](#)
[カノッサ修道会ウェブサイト](#)
『牧者の勸告』第7回に基く「現代世界における聖性」32号



2月8日はスーダン出身の聖ジュゼッピーナ・バキータの記念日で、「世界人身取引に反対する祈りと啓発の日（International Day of Prayer and Awareness against Human Trafficking）」に指定されています。

タリタクム日本では毎年2月8日に祈りと行動を呼びかけていますが、来る2021年2月8日（月）には、「オンラインで共に祈るひととき」の開催を予定しています。今年は、新型コロナ感染症の影響で新しい生活様式が模索される中、ZOOMなど、オンラインのツールを使ったミーティングやセミナーも一般的になってきました。タリタクム日本は、どこからでも参加が可能で、多くの人とつながることのできる「オンラインの祈り」を、今後、積極的に取り入れていきたいと考えています。2月8日の祈りの詳細は、12月中にJ-CaRMのホームページに掲載いたします。皆さまと共に祈る時間を楽しみにしています。

◆タリタクム日本 2021 年活動予定

2021 年活動計画（案）			
2月	2/8 オンラインで共に祈るひととき	7月	7/30 オンラインで共に祈るひととき
4月	タリタクムアジア オンラインセミナー開催（日本企画）	9月	タリタクムアジア会議（タイ）
5月	オンラインセミナー開催予定	10月	オンラインセミナー開催予定
6月	ニュースレターNo.9 発行	11月	ニュースレターNo.10 発行

募金のお願い

「タリタクム日本」では、人身取引被害者の救済活動や啓発活動など今後の活動のための募金をお願いしております。ご協力よろしく願いいたします。

郵便振替口座 00110-8-560351

加入者名 日本カトリック難民移住移動者委員会

「タリタクム日本活動支援」の欄に☑を入れるか、
通信欄に「タリタクム日本」と明記してください。

日本カトリック難民移住移動者委員会

電話：03-5632-4441 FAX：03-5632-7920 E-mail：icarm@cbci.catholic.jp